

台湾と日本における茶の流通時の 品質保証と高付加価値化の現状と課題

日大生産工(院) ○張佳翎 日大生産工 五十部誠一郎

1. はじめに

近年台湾の地理と気候は茶の植栽に最適であり、様々な高品質の茶が生産されている。特にいくつかの有名産地があり、その産地での茶の製品が増加しているが、同時にこれらの原料偽装向上やブランドの定着のためにも産地認証システムの確立とそのシステムを利用して偽装などのない高品質の製品や新たな高付加価値化の商品などの開発が求められる。

本発表では台湾での現状のお茶ビジネスや有名産地のお茶の偽装防止のための取り組みなどの現状と課題を明らかにする。

2. 研究手法

本研究では、流通時の現状として、台湾の茶生産地での偽装対策などの取り組みと日本での認証システムを導入した事例などを調査し、高付加価値化では、GAPや有機JASなどでの栽培時から品質管理で製品の高品質化を狙っている日本での取り組みなどを調査した。さらに新たなお茶の楽しみ方が注目されていることから両国での新規の茶ビジネスの事例調査とそのような取り組みに品質保証や高品質化などがどのように利用されているかについても調査した。

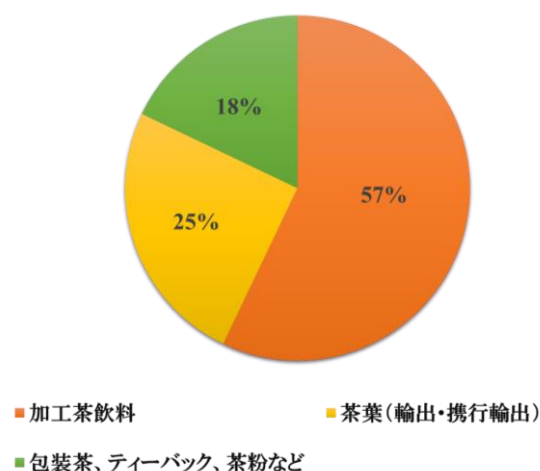
3. 茶産業について

3.1台湾の茶産業

2016年に台湾区製茶工業同業公会は約1500億元であり、そのうち約1000億元(3500億円)は外食業界、泡沫飲料（ドリンクスタンド）、缶詰飲料業界では約250億であると推定されています。国内の贈答品と三通間1800～2500億元(12～17%)の小規模、約13億元(0.8%)の輸出販売。

2015年に食品産業開発研究所が発表した調査によると、2013年の台湾茶市場の総流通量は43,340トンで、そのうち24,797トン(約57%)が加工茶飲料または手回し茶に加工されています。飲料;茶葉1 853トン(約25%)が輸出または訪問者からの贈り物として台湾から持出されます。残りの7783トン(約18%)は、包装茶、ティーバッグ、茶粉などの茶製品として使用され食品原料は中国人によって消費されます。¹⁾

図表1 2013年の台湾茶市場の総流通割合 (%)



4. 品質管理と品質保証

4.1台湾でのお茶の品質管理

品質管理について農産物と安全、近年が品質向上の目的から農業委員会の制度が推進され、この計画では生産から販売などを記録と検証する他、茶葉生産地認証も行っている。

4.2台湾でのお茶の品質保証（偽装防止）

台湾での有名産地のお茶のための取り組みは、産地証明標章と産地団体商標の二つがあり、これらの偽装防止と品質管理のシステムを導入することで、有名産地のお茶の信頼性の維持

Current status of high added value and issues of quality assurance during tea distribution in Taiwan and Japan

Chia ling CHANG and Seiichiro ISOBE

の取り組みが増えている。例えば、阿里山高山茶、凍頂烏龍茶などがある。さらに、台湾の茶葉生産地での「台湾優良茶産地証明マーク」は2012年に8件の地域によって、産地認証が登録されている。（図表2）。

図表2. 2012年8件産地認証の取り組み²⁾



5. 日本のお茶産業について

図表3緑茶市場規模と原料茶使用量の予測³⁾

	金額（億円）		荒茶数量（t）	
緑茶飲料	3,900	60%	25,000	28%
緑茶リーフ	2,600	40%	64,000	72%
合計	6,500	100%	89,000	100%

図表3から以下のことがわかる

- (1) 日本国内緑茶の現状について、急須で淹れる茶を減らして、ペットボトルの製造が増加している。
- (2) 購入場所も量販店、コンビニ、自動販売機など広範になっている。
- (3) 抹茶や粉末茶を利用した（アイス、菓子）商品が多くなっている。

6. 新規茶ビジネスの事例⁴⁾

近年、台湾と日本には新しいお茶の楽しみ方について調査を行った。台湾と日本のお茶葉がほぼ違いがあり、日本では緑茶の飲み方が多いが、日本より台湾は発酵茶が多い例えば烏龍茶と鐵觀音茶など、それについて国は茶葉を淹れ方も違いと、タピオカミルクティーの影響につれて、新しい飲み方も増えて、新規茶カフェビジネスの調査を行った。

7. SWOT分析

SWOTの分析に関しては、日本での茶産業のSWOT分析を参考に台湾の現状からまとめた。

(1) 強みは台湾特色茶にはたくさんの植栽がある。

(2) 弱みは農薬残量の事件が起こった、消費者が不信任感を持っている。

(3) 機会は台湾茶が世界で有名がある。

(4) 脅威は海外の低コストの茶葉を輸入した、低品質茶葉は大体飲料業界で使用する。

8. 結果（改善策の提案）

7のSWOT分析より以下のことを提案する。

台湾での有名産地のお茶の偽装防止のための取り組みは、阿里山高山茶など、14産地まで広がっており、これらの偽装対策やお茶自身の品質管理のシステムを導入することで、お茶の信頼性の維持の取り組みが増えている。また栽培の品質向上の目的から台湾での適正農業規範（TGAP）での生産と履歴記録の実施や販売履歴茶システムなどにより、消費者の信頼性確保の試みが実施されている。一方日本においても大手製茶メーカーであるハラダ製茶のGLOBAL-GAPでの生産や有機JASやFSSC22000、さらには飲料関係の国際的な認証であるUTZ認証を取得した生産など品質保証の取り組みが盛んとなっている。これらの取り組みは、「食の安全」に関する消費者意識の向上を受け、生産者に対して原料の保証が必要であることを明確に示している。新規の茶については茶のブレンドや茶と炭酸、果汁などとの組み合わせ、さらに台湾での抹茶の利用や、日本の茶カフェでの台湾メニューの提供など新規消費者（特に若年層）に対応した動きがみられた。

参考文献

- 1) 手搖杯茶飲有多夯？台灣茶又外銷到哪裡？
<https://www.thenewslens.com/article/96317>
- 2) 日台交流 台湾新聞 農業委員会が優良台湾茶産地証明マークを推進
<http://blog.taiwannews.jp/?p=5459>
- 3) 「日本茶の世界展開の可能性と、それを支える品質管理」
http://jgap.jp/LB_06/20140219_jgap_cha_seminar_panel.pdf
- 4) 台湾優質茶業銷資訊網
<http://teaquality.ttes.gov.tw/chhtml/content.asp?cid=1>